

① アルケゴス・ショック & 野村 HG

- ⇒ 野村 HG の昨日の株価は 603 円 ▲117 円(▲16.3%)
- ⇒ 米投資会社に絡むとみられる損失への懸念が世界の金融機関に広がっている
- ⇒ 野村 HG は 29 日、米顧客との取引に関連して約 20 億ドル(約 2200 億円)の損失が生じる可能性があるとして発表した
- ⇒ 欧米メディアによると、投資会社のアルケゴス・キャピタル・マネジメントが先週、保有株の下落で打撃を受けて資産を投げ売りした
- ⇒ 米ブルームバーグ通信などによると、アルケゴスの売買注文を受けた米ゴールドマン・サックスは 26 日、バイアコム CBS など米メディア銘柄や、百度(バイドゥ)など中国企業の銘柄など計 105 億ドル(約 1 兆 1500 億円)相当の株式を相対で大量売却する「ブロック取引」をしていた
- ⇒ バイアコムや米ディスカバリーの株価は 26 日、前日比約 3 割下落した
- ⇒ 野村やクレディはアルケゴスへの融資や株式ポジションの一部引き受けなどをしてきたようだ
- ⇒ アルケゴスの行き詰まりにより、融資の回収やポジション解消で損失が発生するとみられる
- ⇒ FT によるとクレディの損失は 30 億~40 億ドルとみられる
- ⇒ 欧米の大手金融機関もアルケゴスとの取引があるとみられ、今後関連した損失が広がる可能性もある
- ⇒ アルケゴスは 500%近いレバレッジをかけていたとの見方もある
- ⇒ アルケゴスによる資産売却が一巡したかは明らかでなく、「ヘッジファンドがレバレッジを落とす動きが継続する可能性があり、過剰流動性相場のほころびが広がっていくことへの警戒」(SMBC 日興証券の村木正雄氏)も高まっている
- ⇒ レバレッジの解消とハイテクなど特定銘柄に人気が集まる現象の逆回転が連鎖して急騰から急落へ転じる銘柄が増えるリスクを抱える
- ⇒ アルケゴス問題は、投資家の慢心へのツケが小さくないことを示している

【野村 HG:6ヶ月】



② ベトナム

- ⇒ ベトナム統計総局が 29 日発表した 1～3 月期の実質国内総生産(GDP)は前年同期比 4.48%増となった
- ⇒ 同国は新型コロナウイルスの感染拡大を基本的に抑え込んでおり、底堅い成長を続けている
- ⇒ 成長率は 2020 年 10～12 月期の 4.48%と同じ水準だった
- ⇒ 政府予想(5.12%)をやや下回った

【ベトナム株式:3年】



③ インド

- ⇒ インド政府の SNS(交流サイト)などを対象にした新たな言論規制に、関連企業が猛反発している
- ⇒ 政府が「問題あり」と判断した投稿の削除を運営側に求める内容で、地元のネット企業は「恣意的」とみて裁判所に違憲申し立てを行った。フェイスブックなどの米企業も対応に苦慮する
- ⇒ 政府がネットへの監視を強めるなか、企業の撤退リスクは一段と高まっている
- ⇒ インドの新規制は「対象が本当に幅広い」(デンジボイ弁護士)という。市民のネット上の自由と権利を確保するために活動する団体「インターネット・フリーダム財団」(本部ニューデリー)も「ネット上のプライバシーや言論の自由など広範囲に重大な結果を招く」と指摘する
- ⇒ 国際社会はインドの自由や民主主義が後退しているとみる
- ⇒ 米人権団体フリーダムハウスは最新の年次報告書「世界の自由」でインドを前年の「自由」から「部分的に自由」に引き下げた
- ⇒ 同報告書でインドが「部分的に自由」となるのは、20 年以上ぶり
- ⇒ 英エコノミスト誌による「民主主義指数」でも、モディ政権発足時の 14 年をピークに指数は下落を続けている

【インド株式:3年】



④ マザーズ指数

- ⇒ 1177 ポイントと安値近くで引けました
- ⇒ 昨年 10 月をピークに下落トレンドとなっています
- ⇒ 個人投資家中心のマーケットですが、過去には TOPIX や日経平均の先行指標となっていることが多いです
- ⇒ 3 月の 1113 ポイントを下回るかどうか注目してください

【マザーズ指数:3年】

